

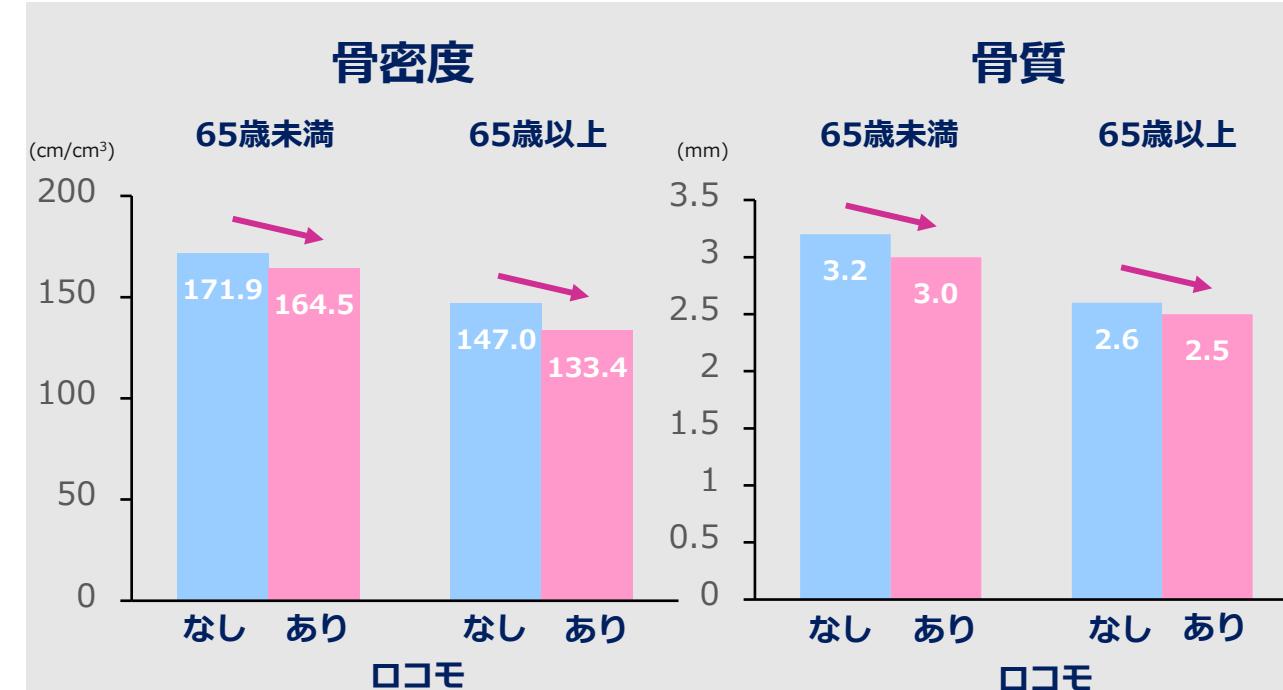
ロコモティブシンдромと骨強度の関連：横断的検討 -骨密度・骨質との関連-

背景

- ロコモティブシンдром(以下、ロコモ)は運動器障害により移動機能が低下した状態であり、フレイルや要介護の前段階と位置付けられる
- ロコモと骨強度についての報告は骨密度が中心で、骨質への影響については十分に検討されていない
- 目的：閉経後女性におけるロコモと骨強度の関連を明らかにする

方法

- J-MICC study 京都フィールドに参加した、50歳以上の閉経後女性1594名のデータを解析した
- ロコモは立ち上がりテスト、2ステップテスト、ロコモ25のいずれかで判定した
- 前腕(橈骨)の骨密度と骨質(皮質骨厚)を超音波骨密度測定装置(LD-100)で測定した



結果

- ロコモあり群ではロコモなし群と比べて骨密度に加えて骨質も低値を示した
- この関連は65歳未満、65歳以上のどちらにおいても認められた

閉経後女性において、ロコモは骨密度および骨質の低下と関連しており、骨折リスクが高まる集団と考えられる。65歳未満からこの関連が認められたことから、早期からのロコモ予防は骨折予防に寄与する可能性がある。